

No.28

2005年11月発行

# 淀川水系 流域委員会 猪名川部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

## CONTENTS

- 第28回猪名川部会の内容…………… P. 1
- 第28回猪名川部会の説明資料より抜粋…………… P. 3
- 配付資料リスト…………… P. 7
- 猪名川部会 委員リスト…………… P. 8
- これまで開催された会議等について…………… P. 9
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付…………… P. 10

平成17年9月11日（日）、第28回猪名川部会が開かれました。



【OMMビルにて】

## 第28回猪名川部会の内容

審議資料1-3「余野川ダム調査検討（とりまとめ）」について、委員との意見交換が行われました。

### 第28回猪名川部会結果報告

庶務作成

開催日時：2005年9月11日（日）14：00～17：05

場 所：OMMビル 2階 会議室

参加者数：委員14名、河川管理者10名、一般傍聴者53名

#### 1. 決定事項：特になし

#### 2. 審議の概要

##### ○余野川ダムに関する調査検討結果について

審議資料1-3「余野川ダム調査検討（とりまとめ）」について、委員と河川管理者の意見交換がなされた。主な意見交換は以下の通り（例示）。

##### ①対象とする洪水について

- ・狭窄部上流域の目標として既往第2位を対象にしたのは何故か（審議資料1-3 P3）。第1位の洪水は特異であるために検討対象から外しているが、どの程度特異なのか。
  - 当初は既往最大洪水を対象としていたが、有効な対策を組み合わせても大幅な被害軽減は難しい。また、1山目が猪名川上流域、2山目が一庫大路次川流域に降った特異な降雨だった。委員会から目標としては過大すぎるという意見も頂いた（河川管理者）。
- ・1/4000とされている既往最大洪水が、本当に特異な雨なのかどうか。自然の警告を無視すべきではない。まずは水系全体の目標とする洪水を定めて、それに対して戦略を立てる必要があるのではないか。
  - 従来の工事実施基本計画では銀橋地点で既往最大洪水程度を目標としている。現在策定を進めている河川整備基本方針においても、この目標を踏襲する考えだ。将来的な目標として既往最大洪水を対象にしているが、今後20～30年では既往第2位を目標に安全度を図っていく（河川管理者）。
- ・既往最大洪水を対象にした場合に、余野川ダムでどれくらい効果があるのかを検討する必要がある。検討結果が既往第2位洪水と同じであっても、検討すべきだ。
  - 銀橋上流に対する余野川ダムの効果は、既往最大であっても既往第2位であってもほとんど変わらない。開削後の下流域に対する余野川ダムの効果は、既往最大洪水であれば、余野川ダムがあってもなくても、堤防天端～余裕高を下回る（河川管理者）。
- ・あらゆる洪水に対して壊滅的な被害を出さないことが流域全体の最終的な目標だ。今回の整備計画で猪名川流域において優先して取り組むべきことは、銀橋上流の浸水被害軽減であり、その対象は既往第2位洪水だと考えている。当然、銀橋上流の浸水被害軽減対策として、既往第2位で十分だとは思っていない。長期的な計画では既往最大洪水に対応していくことになっている。既往第2位はステップの1つだ。また、余野川ダムがあれば猪名川下流域の水位低下効果はあるが（審議資料1-3 P16）、この効果があるから余野川ダムを優先して実施すべきだとは考えていない（河川管理者）。
- ・前期委員会で意見交換をしてきた結果、「あらゆる降雨に対して破堤による壊滅的な被害を回避する」という治水の基本的な理念が、委員会と河川管理者の共通した考え方になった。ただし河川管理者は、例外的に狭窄部上流は対象降雨を設定する必要があるとしたため、委員会と河川管理者で議論してきた。委員会は、実現可能性を考えて、実績最大降雨にすべきだと意見を述べた。従来の整備ではかなり大きな降雨を対象にしてきたために達成率がかなり低い。今後20～30年を対象とした整備計画では、対象降雨を大きくしても達成できなければむしろ被害が出る。一方、河川管理者は、場所によって違うが、実績最大降雨の引き伸ばしを対象に検討を進めてきた。もちろん、実績最大を超える降雨によって超過洪水が発生する可能性はあるが、その場合は、破堤による壊滅的な被害を避けるために河道対策や堤防補強をしていくべきだという考え方を委員会は示している。整備計画の中身を考

える際に、河川管理者にあらゆる降雨パターンを示してもらっても混乱するだけではないか。あらゆるパターンを示してもらうことが本当に有益なのかどうかを考えないといけない。

→他の水系では、流域全体で目標とする降雨や洪水を決めている場合が多い。まず目標を決めて、その目標に向かってステップごとに進めていくべきだ（委員）。

##### ②堤防強化について

- ・審議資料1-3 P18で堤防強化の実施場所が示されているが、整備の優先順位や浸透・侵食に対する危険度が分かるようにしてほしい。
  - 堤防天端～余裕高の水位で堤防の安全性を評価した。緊急堤防補強区間5kmの中で安全性が確保されていない箇所を整備を実施する。残る区間についても詳細点検に着手しており、安全性が確保されていない箇所では緊急補強区間に引き続き整備を実施していく。工事期間は約10年と考えている。一連区間の築堤は、平成20年度に完成を目標にしている（河川管理者）。
- ・余野川ダム残事業費290億円よりも河道掘削案160億円の方が経済的だということだが、河道掘削効果の発現時期が示せなければ、余野川ダムとの比較はできないのではないか。
  - 銀橋上流対策として、一庫ダム・余野川ダムによる対策案と銀橋開削・猪名川下流の河道整備による対策案を検討した結果、効果面、全体コスト面から後者が有利であると考えている（前者は約1080億円、後者は約260億円）。効果の発現時期についても、後者の対策の方が有利だと考えている。具体的なスケジュールはなるべく早く示したい（河川管理者）。

##### ③環境について

- ・掘削場所としてどこを選択するかが大きな問題だ。河川管理者は中州を中心に掘削する考えだが、猪名川には高水敷の公園が多い。中州だけではなく、高水敷を含めて考えないといけない。樹林が繁茂している箇所は冠水する程度まで掘削すればよいのではないか。
- ・治水面の効果がある河道掘削と河川環境のための河道掘削は違ってくるだろう。そのスタンスが明らかではない。場所によって、治水優先、環境優先の場所があるだろう（ゾーニングの考え方）。中州では、平常時の水位から飛び出している部分だけをカットする図が示されている。環境保全にとってはあまり意味がないと思う。どのようにして治水と環境保全を両立させていくか、明確にしていく必要がある。
- ・武庫川下流では、真っ平らに掘削している。このやり方でよいと思う。やがて小さな蛇行ができ、自然の川になる。隠し護岸という考え方もある。造園的にならないようにしていくべきだ。
- ・河道掘削は、まず治水を優先して決めてほしい。その次に環境面から考えた河道掘削を検討すべきだ。

#### 3. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者5名からの発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・猪名川は高水敷の利用率が高い。河道掘削は河川敷利用の縮小とセットで考えるべき。今回の審議事項はこれまでの部会やWGで検討したことだ。審議内容をよく把握して頂けるよう対策を考えてほしい。
- ・前半の審議がうまくいっていない印象を受けた。河川管理者は審議事項を絞って委員会に示すべき。河川管理者には的確に答えて頂きたい。河川整備計画の目標をまず定めて、整備の優先順位を決めて、審議してほしい。余野川ダムの地元は、ダム中止の際には1000億円の補償を考えている。銀橋上流の対策を優先するのではなく、猪名川全体を考えて頂きたい。委員会には地元を是非見て頂きたい。また、軍行橋以下でかなりの河川改修をしないとイケないという河川管理者の説明を受けた。私は、この整備によって河川環境に多大な影響が出ると思う。
- ・河川管理者は自信を持って説明してほしい。これまでに、多田地区の浸水被害についてかなりの時間をかけて検討してきた。余野川ダムは多田地区の浸水被害軽減には効果がないと判明してからも、何とか余野川ダムで対応できないかと考えてきた経緯をわかるように説明してほしい。
- ・地元の補償等には税金が付き込まれる。地方自治体との連携もうまくいっていない。河川管理者や委員会は地元住民に向けた審議をおねがしたい。
- ・新規委員は資料を読んだ上で議論してほしい。引き伸ばし率と被害金額を示した資料も示されている。どんな雨が来ても、越水しても破堤しない堤防補強とソフト面での対応をしていこうという議論もしてきた。過去の審議をきちんと引き継いだ議論をして欲しい。河川管理者もこれまでの説明を理解した上で受け答えをしてほしい。

## 第28回猪名川部会の説明資料より抜粋

第28回猪名川部会では、審議資料1-3「余野川ダム の調査検討（とりまとめ）」を用いて河川管理者より説明があり、その後委員間で意見交換が行われました。以下に資料より一部を抜粋して掲載いたします。

### 1 従来計画

- (1) 余野川ダムは、神崎川、猪名川等の洪水調節、箕面市、阪神水道企業団の新規利水の確保を主たる目的として計画されています。

### 2 基礎案での記述

- (1) 基礎案では、神崎川、猪名川等の洪水調節、銀橋上流多田地区の浸水被害の軽減に効果があるとしています。
- (2) 必要な調査検討として、以下の項目を挙げています。
- 1) 代替案に関して、さらに詳細な調査検討を行う。
  - 2) 余野川ダムの貯水池規模の見直し並びに余野川ダム及び一庫ダムの貯水池運用の変更に伴う貯水池周辺やダム下流に与える影響をはじめ、環境等の諸調査を行う。
  - 3) 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。
  - 4) 利水について、水需要の精査確認を行う。

### 3 調査検討のこれまでの成果

#### (1) 治水

- ① 従来計画では、銀橋狭窄部を開削し、多田盆地の浸水被害軽減を図ることとしています。しかし、現在の河川整備状況では、猪名川の水害の危険性を増大させるおそれがあるため、銀橋狭窄部を開削は当面実施することはできないと当初考えました。

- ② 計画の検討にあたって、銀橋狭窄部を開削は当面実施しないことを前提に、狭窄部上流域については、既往第二位の洪水を対象にして浸水被害の軽減を図ることを目標としました。また、銀橋狭窄部の上流域で実施中の総合治水対策において目標としている洪水に対しても浸水被害の軽減を図ることを併せて目標としました。なお、既往最大の洪水(S35.8)は、降雨量、降雨の空間分布・時間分布がともに特異であることから、検討対象から外すこととしました。

表-1 猪名川流域の代表的な洪水\*1

洪水名	小戸地点流域 平均日雨量 (mm/日)	①銀橋地点 現況計算ピーク流量		②銀橋地点 計算ピーク流量		③多田盆地 浸水想定被害総額 (億円)
		流量 (m³/s)	順位	流量 (m³/s)	順位	
S28.9	148.3	842	4	1,489	3	1
S34.9	133.8	591	9	1,235	5	0
S35.8	374.6	1,628	1	2,006	1	633
S36.6	95.1	575	10	888	10	0
S42.7	182.0	875	3	1,221	6	1
S43.8	96.6	531	11	636	11	0
S47.7	166.1	671	6	1,051	7	0
S47.9	142.9	659	7	1,242	4	0
S58.9	136.0	1,015	2	1,539	2	71
H1.9	142.0	642	8	960	8	0
H11.6	165.3	698	5	933	9	0
総合治水*2	154.8	1,017	—	—	—	45
各洪水の降雨は当時の降雨量および降雨波形を再現		・河道および流域の土地利用は現況の整備状態で設定 ・一庫ダムの操作は現行操作(150m³/s定量放流)で設定		・河道は全て改修された(氾濫させない)状態で流域の土地利用は現況の整備状態で設定 ・一庫ダムはない状態で設定		①で既往洪水が再来した場合を想定した氾濫シミュレーション結果 ・破堤条件：堤防がある箇所では「堤防天端一余裕高」で破堤。堤防がない箇所は溢水。

\*1 戦後、猪名川流域で浸水被害が記録された代表的な洪水

\*2 総合治水対策(S58策定)の対象洪水：昭和28年9月洪水の1.044倍

- ④ 銀橋狭窄部を開削を実施すれば、上流域での対策に比べて、効率的に狭窄部上流域の浸水被害の軽減を図ることができます。ただし、銀橋狭窄部を開削する場合、下流への洪水量増大が懸念されます。この点については、下流での河道掘削を行うことで水位の上昇を抑制することが可能であると判断しています。ダムにより水位の上昇を抑制することも可能ですが、治水単独目的の事業となることで治水分の事業費が増加し経済的にも不利になり、河道掘削の方がコストの観点から有利です。

### 3) 猪名川下流部への影響対策

#### (i) 河道掘削案の考え方

銀橋狭窄部開削による影響(水位増)を解消するための掘削規模の設定を行いました。開削による影響は「開削後の水位」と「開削前の水位」若しくは「堤防天端一余裕高」のいずれか高い方との差としました。掘削する箇所は、猪名川の河川環境に配慮して主に中洲としました。中洲掘削は、原則、平水位から上の部分の掘削とします。なお、神崎川は大阪府の既定計画である全体計画の整備が実施されたものとしました。

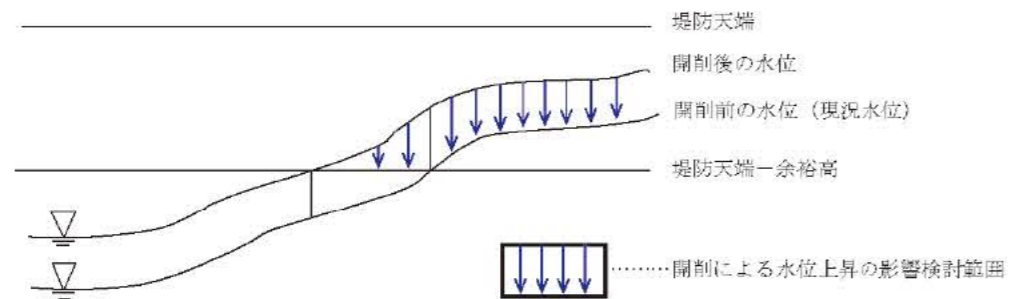
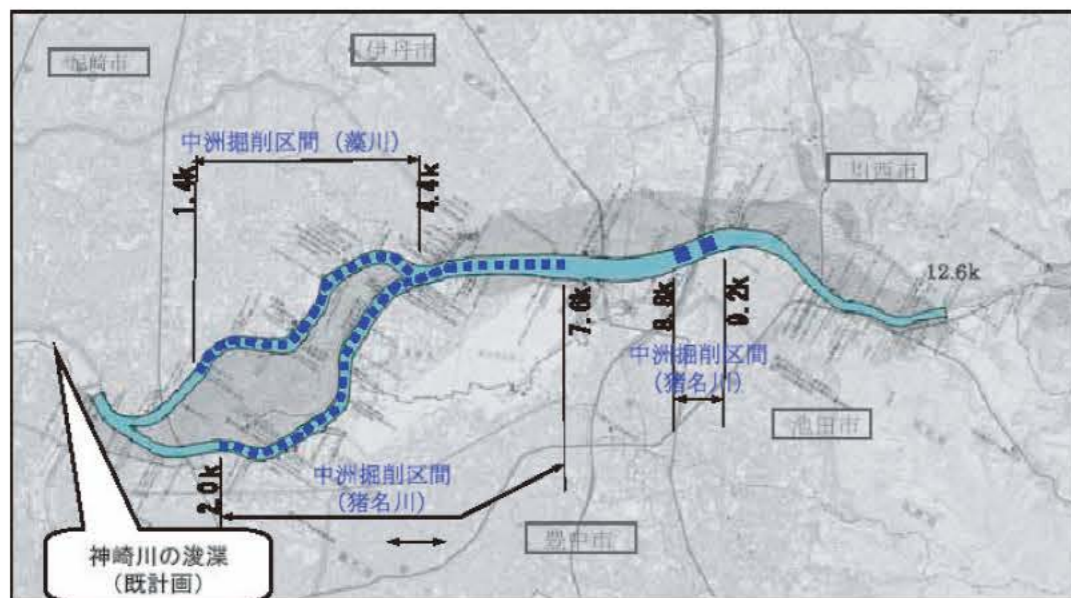


図5 対象とする洪水のイメージ図



注 神崎川は大阪府の全体計画の整備が実施されたものとします。

図6 河道掘削平面図

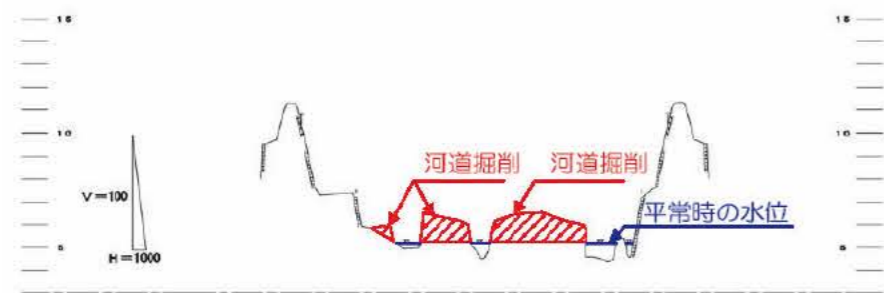


図7 掘削イメージ図

⑦ 余野川ダムの洪水調節による猪名川(狭窄部の下流)への効果はありますが、当面は堤防強化や狭窄部上流の浸水被害の軽減等の対策を優先して実施します。

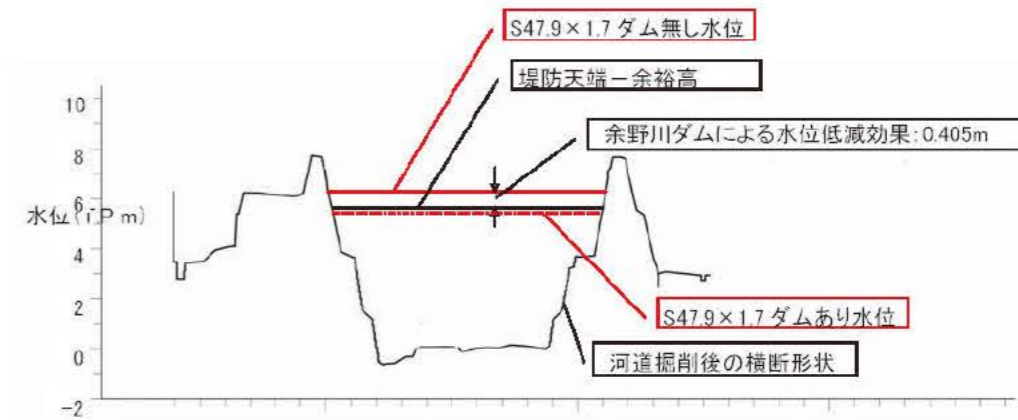
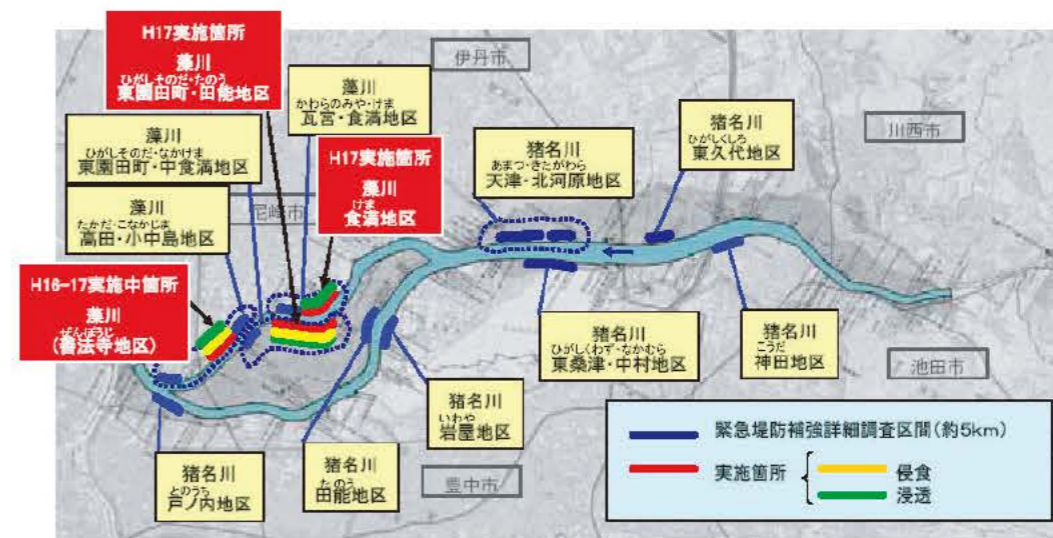


図11 余野川ダムによる水位低減効果 (猪名川: 2.4k)

堤防強化

当面優先して実施する対策として、狭窄部の下流では、猪名川では堤防によって多くの生命と財産が守られている現状があります。洪水に地域で取り組む対策(ソフト施策を含む)を進めるとともに、堤防の脆弱性及び背後地の重要度等を勘案し既存の堤防の強化を実施します。



## 配付資料リスト

### ●第28回猪名川部会 配付資料

資料リスト		資料請求 No
議事次第		i28-A
報告資料1	第27回猪名川部会（H17. 8. 18開催）結果報告	i28-B
報告資料2	第45回委員会報告資料2 住民と委員との意見交換会の実施報告（余野川ダム）の修正について	i28-C
審議資料1-1	淀川水系5ダムについての方針 ※河川管理者提供資料	i28-D
審議資料1-2	淀川水系5ダムについて（調査検討のとりまとめ） ※河川管理者提供資料	i28-E
審議資料1-3	余野川ダムの調査検討（とりまとめ） ※河川管理者提供資料	i28-F
審議資料1-4	「淀川水系5ダムについての方針」に対する見解	i28-G
その他資料	委員会の今後のスケジュール	i28-H
参考資料1	委員および一般からのご意見	i28-I
参考資料2	2005. 9. 6 新聞記事	i28-J

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP. 10の「配付資料及び意見書の閲覧・入手方法」をご覧ください。

## 猪名川部会 委員リスト

2005. 9. 9現在  
（五十音順、敬称略）

No.	氏名	対象分野	所属等	兼任状況
1	池淵 周一	水資源・水循環	京都大学防災研究所 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
2	角野 康郎	植物	神戸大学理学部 教授	琵琶湖部会 住民参加部会
3	金盛 弥	洪水	元大阪府副知事	淀川部会 利水・水需要管理部会
4	澤井 健二	河川敷・水面利用	摂南大学工学部 教授	淀川部会 住民参加部会
5	高田 直俊	洪水、 河道形状・土砂移動	大阪市立大学 名誉教授 社団法人 大阪自然環境保全協会 会長	淀川部会 利水・水需要管理部会
6	千代延 明憲	住民連携	流域住民	淀川部会 利水・水需要管理部会
7	本多 孝	住民連携	IPNET-Jインタープリテーションネットワーク・ジャパン 事務局長	淀川部会 住民参加部会
8	三田村 緒佐武	生態系、住民連携	滋賀県立大学環境科学部 教授	琵琶湖部会 住民参加部会
9	村上 興正	生態系、動物、景観	同志社大学 嘱託講師	淀川部会 住民参加部会
10	村上 哲生	水質	名古屋女子大学 教授	木津川上流部会 住民参加部会

## これまで開催された会議等について

第28回猪名川部会（平成17年9月11日）までに、以下の会議が開催されています。

委員会	琵琶湖部会	淀川部会	猪名川部会
第1回～第6回 平成13年開催	第1回～第8回 平成13年開催	第1回～第10回 平成13年開催	第1回～第6回 平成13年開催
第7回～第15回 平成14年開催	第9回～第20回 平成14年開催	第11回～第20回 平成14年開催	第7回～第17回 平成14年開催
第16回～第27回 平成15年開催	第21回～第27回 平成15年開催	第21回～第23回 平成15年開催	第18回～第20回 平成15年開催
第28回 H16/2/26 (木)	第28回 H16/10/13 (水)	第24回 H16/8/25 (水)	第21回 H16/9/1 (水)
第29回 H16/5/8 (土)	第29回 H16/11/8 (月)	第25回 H16/9/17 (金)	第22回 H16/10/21 (木)
第30回 H16/6/22 (火)	第30回 H16/12/15 (水)	第26回 H16/10/19 (火)	第23回 H16/11/2 (火)
第31回 H16/7/29 (木)	第31回 H17/1/8 (土)	第27回 H16/11/30 (火)	第24回 H16/12/3 (金)
第32回 H16/8/24 (火)	第32回 H17/4/13 (水)	第28回 H16/12/18 (土)	第25回 H16/12/23 (木)
第33回 H16/9/29 (水)	第33回 H17/8/17 (水)	第29回 H17/4/11 (月)	第26回 H17/4/14 (木)
第34回 H16/10/25 (月)	木津川上流部会 第1回 H17/4/20 (水)	第30回 H17/8/22 (月)	第27回 H17/8/18 (木)
第35回 H16/11/16 (火)	第2回 H17/8/20 (土)	ダムWG 第1回 H16/7/11 (日)	第1回 H16/8/7 (土)
第36回 H16/12/20 (月)	環境・利用部会 第1回～第7回 平成15年開催	第2回 H16/7/18 (日)	第2回 H16/9/11 (土)
第37回 H17/1/11 (火)	治水部会 第1回～第6回 平成15年開催	第3回 H16/7/25 (日)	第3回 H16/11/8 (月)
第38回 H17/1/22 (土)	利水・水需要管理部会 (旧利水部会) 第1回～第5回 平成15年開催	第4回 H16/8/19 (木)	川上ダムサブWG 第1回 H16/8/3 (火)
第39回 H17/2/5 (土)	第6回 H17/4/24 (日)	第5回 H16/9/23 (木)	第2回 H16/9/3 (金)
第40回 H17/3/14 (月)	住民参加部会 第1回～第7回 平成15年開催	第6回 H16/10/4 (月)	余野川ダムサブWG 第1回 H16/8/11 (水)
第41回 H17/5/17 (火)	第8回 H17/4/24 (日)	第7回 H16/10/18 (月)	第2回 H16/9/22 (水)
第42回 H17/7/21 (木)	水位操作WG 第1回 平成15年開催	第8回 H16/11/10 (水)	第1回 H17/6/29 (水)
第43回 H17/7/25 (月)	第8回 H17/4/24 (日)	第9回 H16/12/1 (水)	
第44回 H17/8/5 (金)		第10回 H16/12/5 (日)	
第45回 H17/8/24 (水)			
その他 設立会 発足会 第1回 合同懇談会 第1回 合同勉強会 シンポジウム 拡大委員会 提言説明会 しっかりしてや!! 流域委員会 ファシリテーターとの検討会	平成13年開催 平成14年開催 平成15年開催 H16/2/28 (土) H16/5/15 (土)	大戸川、天瀬ダム意見交換 丹生ダム意見交換会 住民の意見を聞く会 住民と委員との意見交換会(丹生ダム) 住民と委員との意見交換会(余野川ダム) 住民と委員との意見交換会(川上ダム) 住民と委員との意見交換会(大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発)	H16/9/26 (日) H16/9/27 (月) H16/12/5 (日) H17/8/17 (水) H17/8/18 (木) H17/8/20 (土) H17/8/22 (月)

## 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。  
 ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。  
 ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

### ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

### 郵送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

### 閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

### 「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。

※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

## ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。

ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、下記までお寄せ下さい。

※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。

※ご意見を公表する場合には、団体・会社名（または居住地）とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。

※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail [yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp](mailto:yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp)

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務  
みずほ情報総研(株)



---

## 淀川水系流域委員会 猪名川部会ニュース No. 28

---

2005年11月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社

.....  
研究員：吉岡、篠田、鈴木、熊谷、松本

事務担当：山根

---

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-2-1 (大阪富士ビル8階)

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E - mail : yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源機構 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川計画室／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木局河川計画課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

\*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。